

乗馬プログラム 参加同意書

社会福祉法人 地球郷

乗馬プログラムに参加するに当たり

障害者乗馬の概要と効果

現在、世界における「乗馬療法」の概念は、治療的効用を求めて用いる3つの応用分野の総称として用いられています。それに次ぐ4つ目としてすでに多くの専門家が実践している心理的療法乗馬がありますが、これはまだ理論的に確立されていません。

応用分野の第一は、馬の運動作用を利用しておこなう「ヒポセラピー」です。セッションは理学・作業療法士の中でも特別な勉強を行ったヒポセラピストが行い、障害者は騎乗者ではなく患者として位置づけられます。

第二は、馬に乗る喜びを通じ、身体的、精神的な発達や社会性の体得を目的とした「セラピューティック・ライディング」です。セッションは特別な勉強をした乗馬インストラクターが行い、理学・作業療法士や特殊教育の専門家が支援します。

第三は、「スポーツ&レクリエーション」としての乗馬です。余暇活動から競技スポーツまで幅広い運動であり、セッションは乗馬インストラクターが行います。これは乗馬技術の習得が主目的で、自立した騎乗者を目指します。また、スポーツレクリエーションを通じ、障害による運動不足や行為障害、二次障害を予防することに力点が置かれています。

乗馬プログラムでの取り組み

乗馬プログラムでは、セラピューティック・ライディングとスポーツレクリエーションとしての乗馬に取り組んでいます。

対話なくして馬との真の信頼関係は生まれません。近寄った時からお互いの関係が始まります。人と馬は、身体と馬体による非言語的コミュニケーションによって関係を築く事が可能です。それは、障害者のある方も同様です。そしてこれが徐々に、他者との交流やコミュニケーションを行う上での自信につながります。

また騎乗して馬の多次元的な動きを体験することにより、知覚・視覚・聴覚・臭覚・触覚を刺激し、固まってしまっていた運動、行動パターンを解くことができます。さらに、騎乗者は馬の動きに随伴しないと調和の取れた運動感覚が得られないため、馬のリズムに合わせ、自身の動きを調整することが求められます。この調整がなめらかであるほど両者の関係は強まり、人馬一体となることが出来ます。人馬一体となることで持続する勇気と動機付けが生まれ、他の目的を達成する可能性が増えます。

乗馬プログラムでは、乗馬を通じこの可能性を最大限に引き出すプログラム作りを心がけています。

乗馬のリスク

障害者乗馬のプログラムがいかに素晴らしいかを理解していただけたでしょうか？その反面、自分の何倍もある大きな動物と接するため、それなりのリスクがあることを理解していなければなりません。考えうるリスクを以下にあげます。

イ) 踏まれる……

ブラッシングや、ふれあい等で、人がそばに居る時でも、馬は動きます。その際によけるのが遅ければ、踏まれることもあります。

ロ) 噛まれる……

ニンジン等をあげる際に、握ったニンジンを離さなかったり、馬が食べようとした時に、手を引っ込めてしまったりすると噛まれることがあります。

ハ) 蹴られる……

馬の視野はとても広いですが、真後ろは見えません。不用意に後ろから近づくとおびえたり、驚いたりして蹴られることもあります。

ニ) 落馬……

馬は大きくて頼もしい反面、とても繊細で臆病な生き物です。そのため突然の大きな音や声・動きに対して驚き暴れるかもしれません。その時に、乗り手がバランスを崩すと落馬することがあります。

ホ) その他……

馬は生きものですので機械のようにコントロールが出来ません。日頃の調教、馬との関係作りで、リスクを最小限に抑える努力は怠りませんが、1)～4)の他にも、危険を伴うことがあるかもしれません。

ヘ) 予防接種……

土中には破傷風菌が居る可能性があります。プログラムに参加の際は、破傷風の予防接種を受けることをお勧めいたします。

リスクの回避

上記のようなリスクを回避、または最小限に抑えられるように、介助の方法の勉強会や、馬の調教、道具や施設の安全点検を行っています。絶対に怪我をさせないと保障することはできません。落馬をすれば、骨折で済まされない場合もあります。乗馬プログラムに参加する場合は、危険やリスクが伴うこともあるという覚悟をなさってください。その覚悟ができない場合には、ご参加を見合わせていただきます。

事故、怪我の対処について

状況に応じて、医療機関への搬送、その場での応急処置はいたしますが、その後については保護者の方でご対応をお願いします。その場での判断が難しい場合は、緊急連絡先にご連絡し、ご相談させていただきます。活動時間中は、常に連絡の取れる状態にしておいてください。連絡が取れない場合は、判断はこちらにらせていただきます。

社会福祉法人 地球郷

理事長

松本 伸子 殿（乙）

上記について説明を受け、理解、納得した上でプログラムに参加いたします。

記入日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

参加者氏名 _____

保護者等氏名（甲） _____ 印

（この書類を2部作成し、甲乙1部ずつを保管することとします。）